



2024年 5月期 第1四半期 決算説明会

証券コード：7725

※本決算説明会の内容につきまして、ご参加される方による
録音、録画はご遠慮いただきますようお願い申し上げます。

Agenda

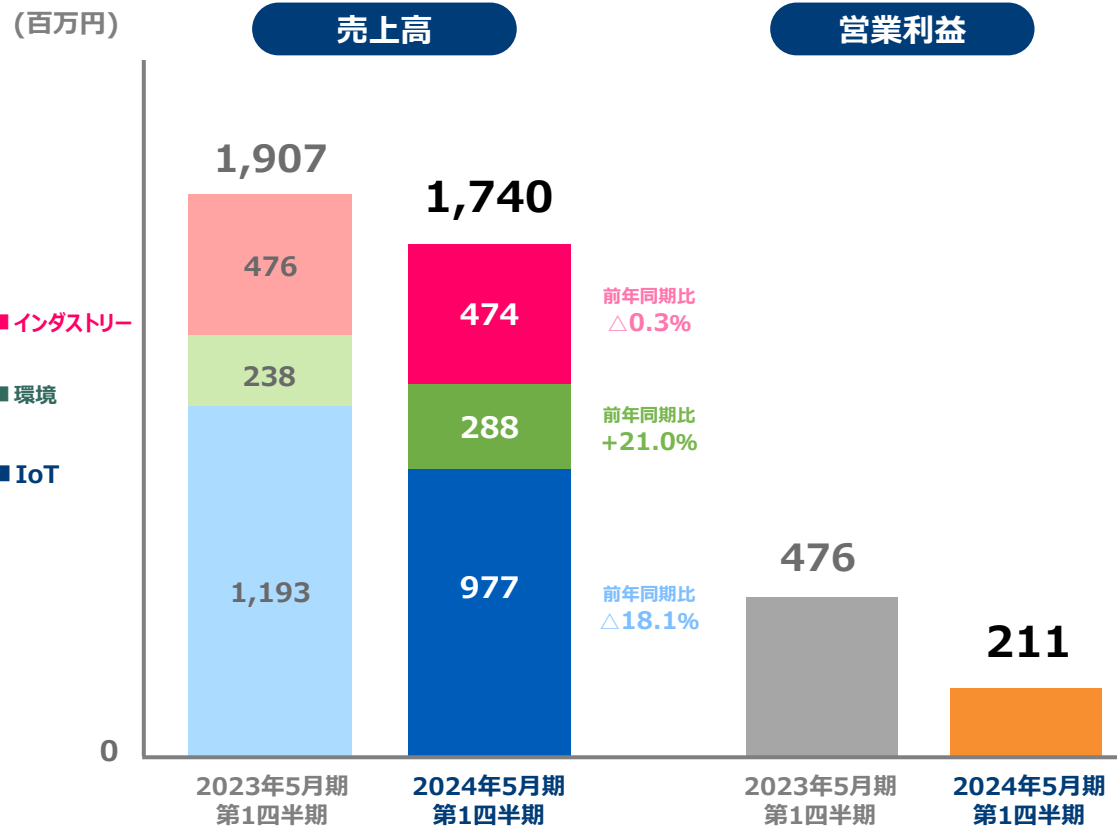
- ① 業績サマリー
- ② セグメント別 TOPICS
- ③ 中期経営計画の進捗状況（今後の事業展開）

-Appendix-

業績サマリー

POINT

- 主に、IoT関連事業セグメントが低調に推移し、連結業績は前期比で減収減益となった。
- **IoT関連事業セグメント**：収益性の高い海外顧客向け検査用光源装置の販売が低調に推移。
- **環境エネルギー事業セグメント**：乾燥脱臭装置本体及び排ガス処理装置メンテナンスの販売が堅調に推移。
- **インダストリー4.0推進事業セグメント**：精密除振装置の販売は好調に推移したものの、歯車試験機の販売が低調に推移。
- **当連結会計年度では下期偏重の予算編成となっており、当第1四半期においては概ね予算通り堅調に進捗している。**

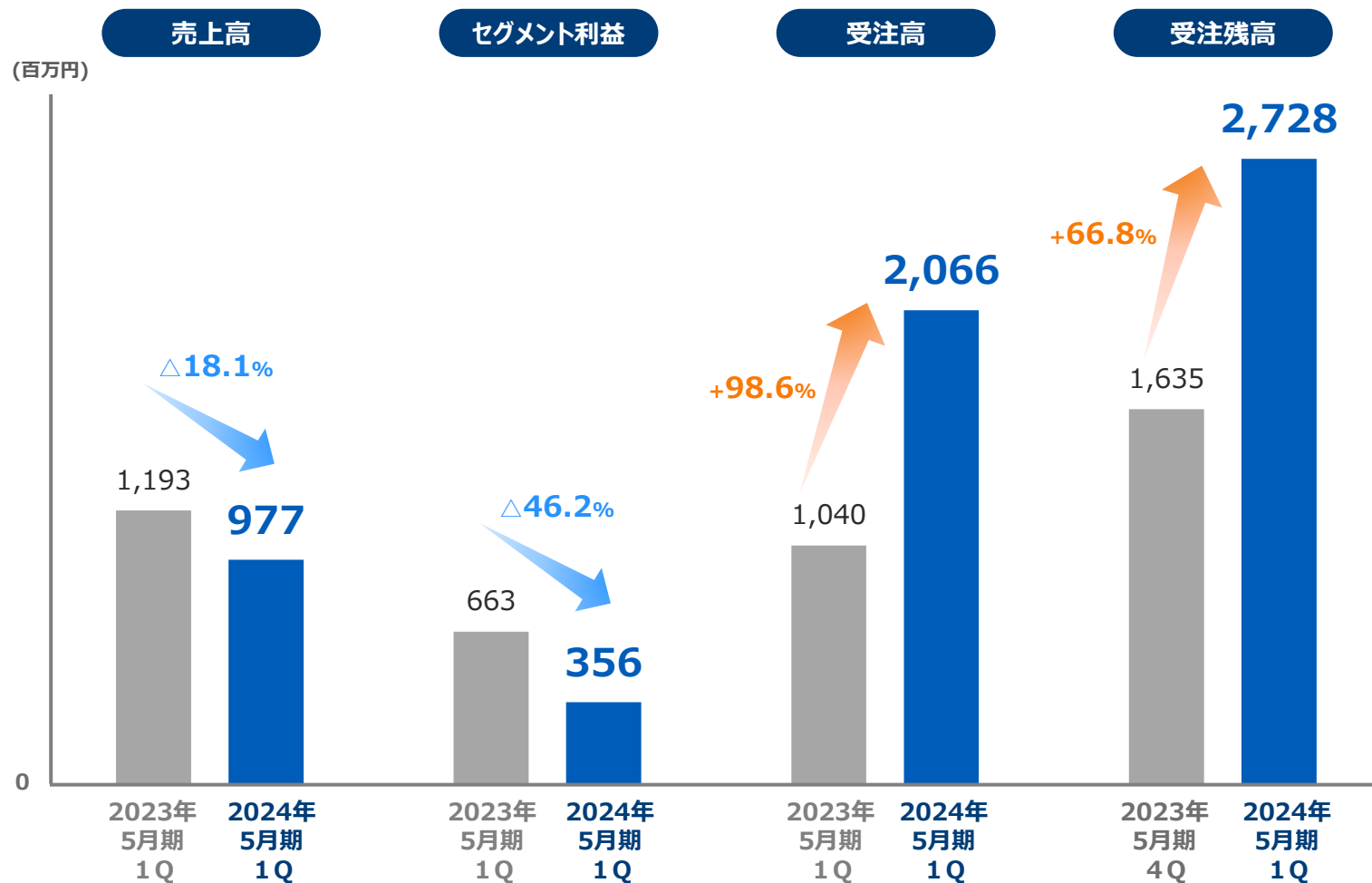


主要な経営指標の推移

(百万円)	前第1四半期	当第1四半期	前期同期比増減率 (%)
売上高	1,907	1,740	$\Delta 8.8$
営業利益	476	211	$\Delta 55.7$
経常利益	519	239	$\Delta 53.8$
親会社株主に帰属する四半期純利益	351	150	$\Delta 57.2$
1株当たり四半期純利益	32.38円	13.90円	-

セグメント別 TOPICS

減収減益 となったものの、国内顧客の先行投資等により 受注高は大幅増



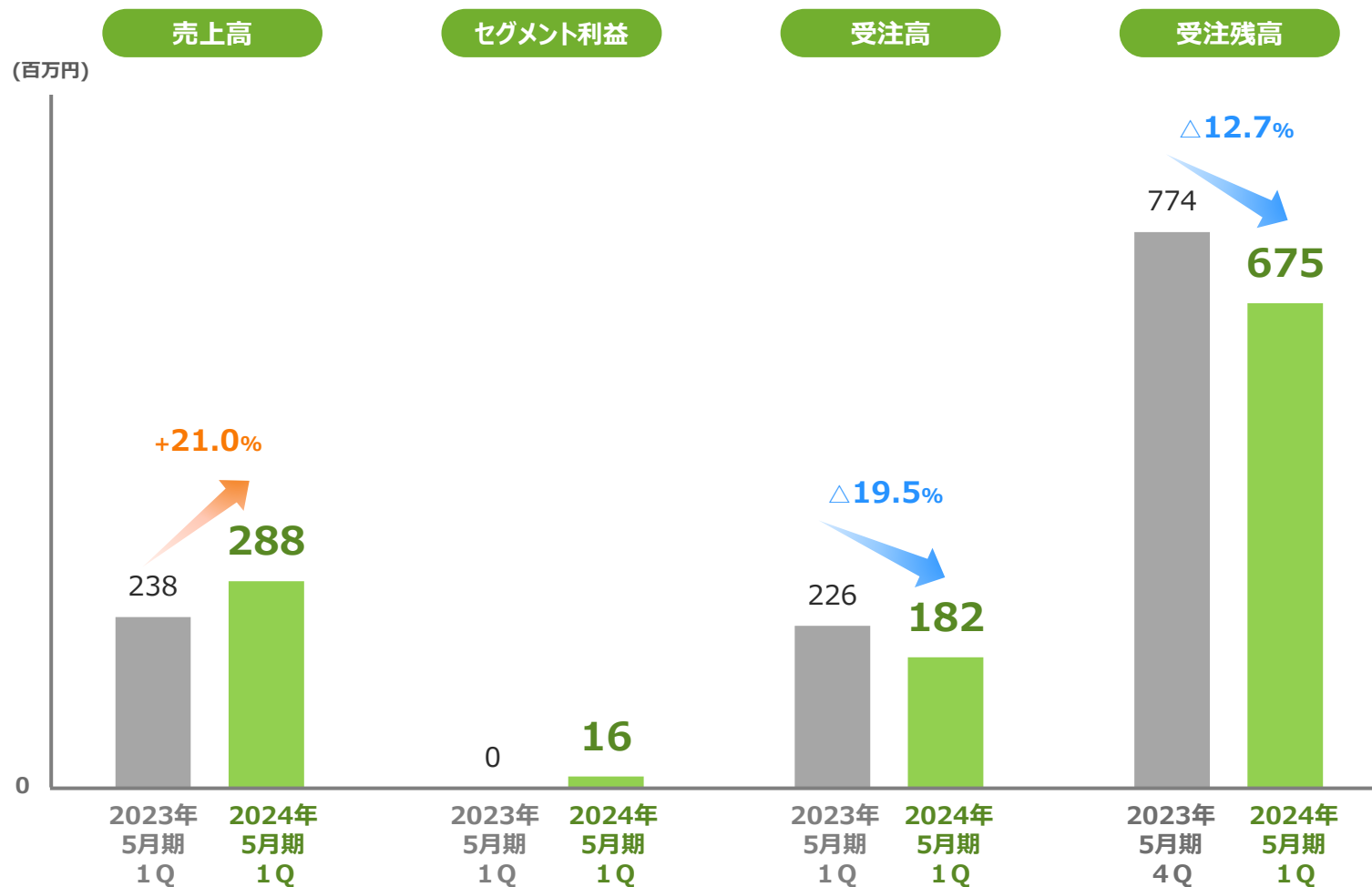
➢ 国内顧客における設備投資需要は、顧客側の中長期的な生産能力増強の動きに伴い堅調に推移。新型光源装置の受注も獲得し、受注高は大幅に増加。

➢ 海外顧客については、一部地域におけるスマートフォンの需要及び販売数量停滞の影響を受け、顧客側の設備投資は慎重な状況が継続。
 ➢ スマートフォンの需要が停滞している理由は買い替えサイクルの鈍化、中古スマートフォン市場の成長等が考えられる。

補足

➢ イメージセンサ市場は2024年を起点として徐々に回復想定
 ➢ イメージセンサの用途は未だにモバイル向けが中心であり、検査装置の販売割合としてもモバイル向けが大部分を占めている。
 ➢ 一方、車載向けセンサに対する検査装置需要も年々増加傾向にあり、自動運転の実現に向けて更なる需要が発生する可能性有。

設備投資需要は新型コロナウイルス感染拡大前の水準に戻りつつあり **増収増益**

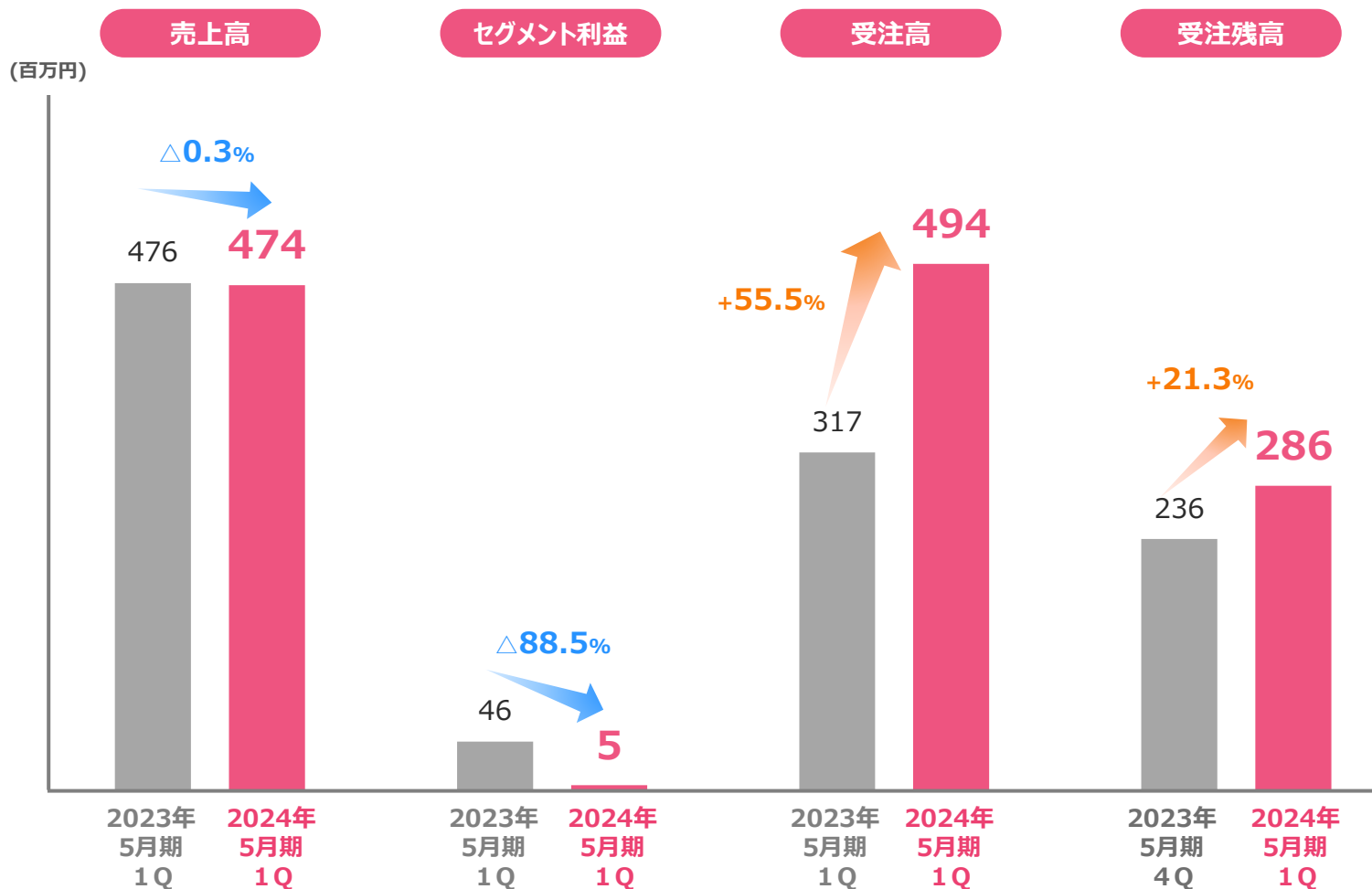


- 乾燥脱臭装置分野においては、価額の高い装置本体の販売が堅調に推移。
- 排ガス処理装置分野において収益性の高いメンテナンス案件の販売が堅調に推移。
- 経産省の「省エネルギー投資促進支援」によって需要増。

➢ 部材不足等によるコスト増と納期の長期化については引き続き発生している状況。先行手配で対応。

- 新規製品であるAEセンサ（故障予測センサ）は試作機の完成間近。今期中に客先への導入を目指す。
- 組織体制の強化・再構築を図り、新規人材を数名採用。
- カーボンニュートラルに向けた取り組みを模索中。（アンモニア処理技術を活用した次世代エネルギーの創出 等）

受注高は大幅増 だが、歯車試験機の自動車関連向けの設備投資が落ち着いていたため **減収減益**



- 精密除振装置の販売及び受注は主に国内顧客向けの大型受注案件によって堅調に推移。
- 海外からも大型の引き合いがあり、国内外共に精密除振装置の需要は今後も堅調に推移する想定。

- 精密除振装置において、エンドユーザーの工期遅延により納期が後ろ倒し傾向。
- 歯車試験機において、前年同期に自動車関連企業向けの設備投資が活発に行われており、当1Qは落ち着いた状況となった。収益性が精密除振装置よりも高いため減益の要因にもなった。

- 振動モニタリングアプリをリリース。受注獲得。
- 加振機の量産に向けて「量産向け試作機」の性能を検証中。
- AI画像処理装置は大手家電メーカーより新規受注獲得。
- 歯車粗さ測定機は自動車メーカーからの引き合いあり。受注獲得に向けて測定データ等の検証中。

補足

中期経営計画の進捗状況（今後の事業展開）

中期経営計画 では主に 2つの市場への参入 を目標としている



目指す
事業領域

① 半導体製造市場



IoT関連事業

レーザ加工事業

AI画像処理事業

② 次世代工場市場



AI画像処理事業

振動ソリューション事業

既存顧客に対する技術革新と新規顧客開拓によって業界でのリーダーシップを発揮し更なるシェアの向上を図る



瞳モジュール®自動製造機の導入により 既存顧客に対する技術革新と 新規顧客開拓を支える 事業基盤の強化を図る

既存顧客

パートナー企業と連携で技術革新を起こす → 提供価値の向上



パートナー企業

新型瞳モジュール® 共同開発

- ▶ 他社との共同開発により同測数とテスト精度を向上させた瞳モジュール®の開発を目指す
- ▶ 競合が模倣できない付加価値を創出する

新規顧客

開発・拡販活動の強化 → 新規顧客の開拓



拡販



海外顧客

海外顧客向け瞳モジュール® 販売促進

- ▶ 技術的課題はクリア
- ▶ 納期や安定した量産体制の構築が課題
- ▶ 更なる新規顧客開拓も視野に入れて拡販活動に注力

瞳モジュール®自動製造機の導入 → 事業基盤の強化



瞳モジュール®
自動製造機の導入

短納期・高効率・高品質の実現

- ▶ 自動製造機導入により、納期短縮と社員1人当たりの生産性向上を実現させる
- ▶ 短納期・高効率・高品質の実現によって既存顧客への提供価値の向上と新規顧客開拓に繋がる

レーザ加工機の開発によって半導体関連市場における「ウエハダイシング工程」への参入を引き続き目指す

レーザ関連機器の研究開発 + 商社活動中心

商社活動 + レーザ加工装置の販売

売上高
(百万円)

ダイシング装置開発 予定通り進捗中（2024年リリース予定）



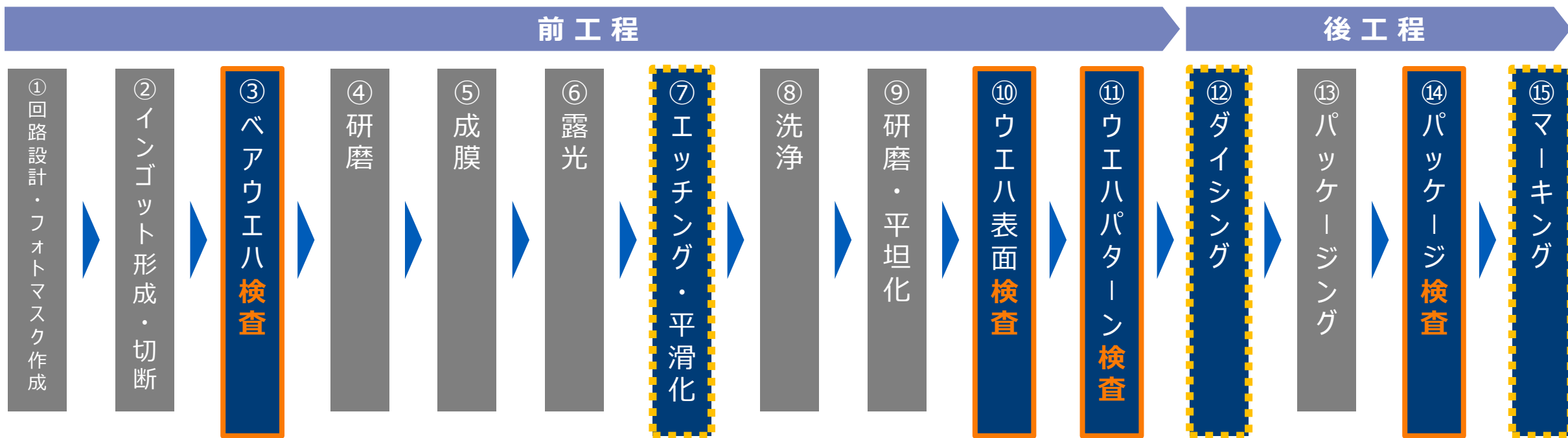
長崎開発センターに試作機を設置（上図参照）

性能向上に向けてテストを繰り返し、実験データを取得中

2023年
6月～8月



「ウエハダイシング工程」以外への応用も視野に入れ研究開発を進める



...レーザ技術の応用が可能な工程（加工）

...レーザ技術の応用が可能な工程（検査）



顧客からのニーズも踏まえ、加工だけでなく「**検査装置**」への応用も検討

“**見えないものを見せる技術**” によって半導体製造工程における検査の可能性を広げる

製品価値の向上・参入市場の多角化

Step1

歯車検査の進化

Step2

半導体検査への応用

Step3

更なる半導体検査工程への参入

CLEAR!

FA画像処理装置（歯車向け）の完成



研究開発

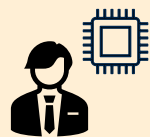
製品化

- ・歯車の傷/汚れ検査 精度、効率大幅に向上
- ・拡販活動中

step up

進捗中

AI画像処理装置（半導体向け）の開発



半導体装置
メーカー



装置製造
の依頼



AI画像
処理装置

step up

- ・半導体製造装置メーカーから引き合い
- ・連携しながら研究開発中

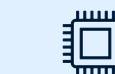
今後の取り組み

新規マーケットの開拓



AI画像
処理装置

様々な検査
への応用



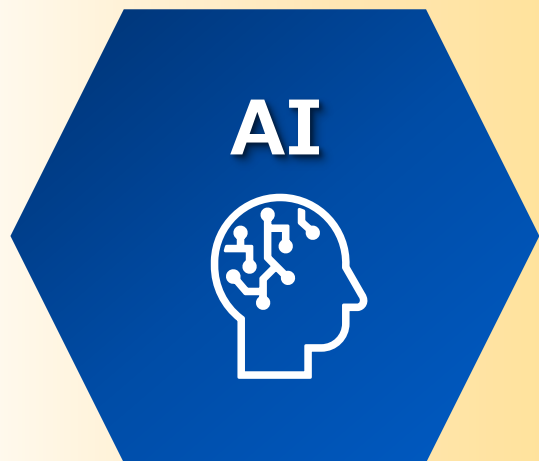
新規マーケット
(半導体検査工程)

- ・イメージセンサの検査光源事業及び
歯車向けFA画像処理事業で培われた
「撮像技術」と「AI技術」で事業拡大を目指す

見えないものを見せてできないことをできるようにする

2028年までに数億円規模の売上高を創出する

AIを活用して データの“見える化” を実現し 顧客の生産性向上 に寄与する



AI 画像処理装置



AI 画像処理装置

引き合い / 受注



家電メーカー
楽器メーカー
⋮
etc.

- AI×画像処理 で欠陥の“見える化”
- 歯車分野以外でも引き合いが多数
受注も獲得
- 今期中に 1 億円の受注を目指す

振動ソリューション事業



振動モニタリングアプリ

引き合い / 受注



FPDメーカー（有機EL）



応用



AI振動解析アプリ
(収集した振動データを活用)

- 専用ソフトの開発によって振動を“見える化”
- 韓国の有機EL製造メーカーから引き合いがあり
試作機の導入が決定
- AIを活用した振動データ解析ソリューションも
同時に提案し、ビジネスを拡大させる

人材教育・採用に注力 今期中に中期経営計画達成に向けた組織基盤を構築する

2028年5月期
…
2024年5月期

中期経営計画

売上高 11,286 百万円

営業利益 2,806 百万円

⋮

中期経営計画達成に向けた基盤を構築

社長室の新設・経営企画機能の強化

M&A人材の採用

各事業リーダー層の教育・新規採用

社員教育プログラム“英雄アカデミア”始動

株主還元の見直しを行い **中間配当の実施** を決定

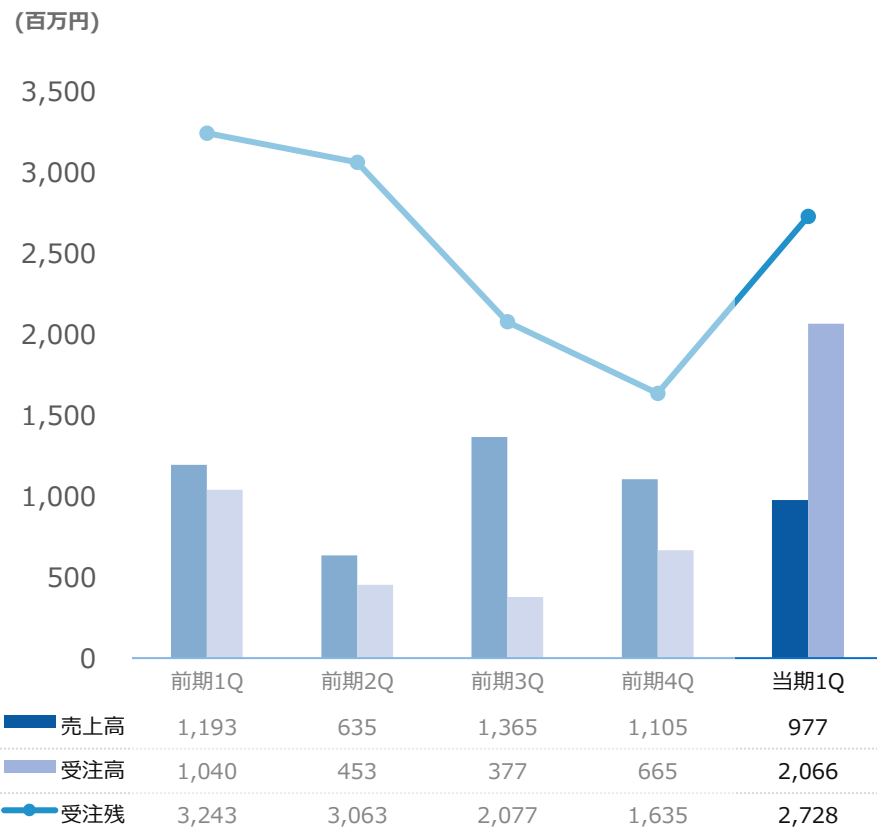


- 財務状態と事業の成長見込みを踏まえて**先行的に増配を実施**
- 基本方針としては **総還元性向 30%以上** を掲げている
- **配当性向**の目安値は設定していないが基本的に**安定配当（非減配）**の方針

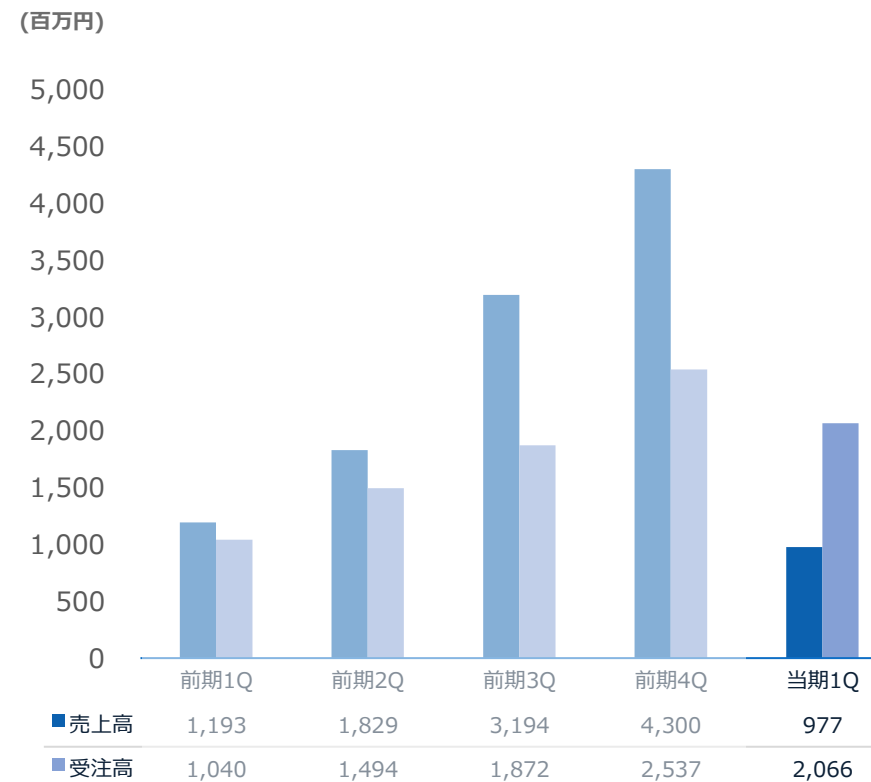
Appendix ①

売上高・受注高・受注残高 推移

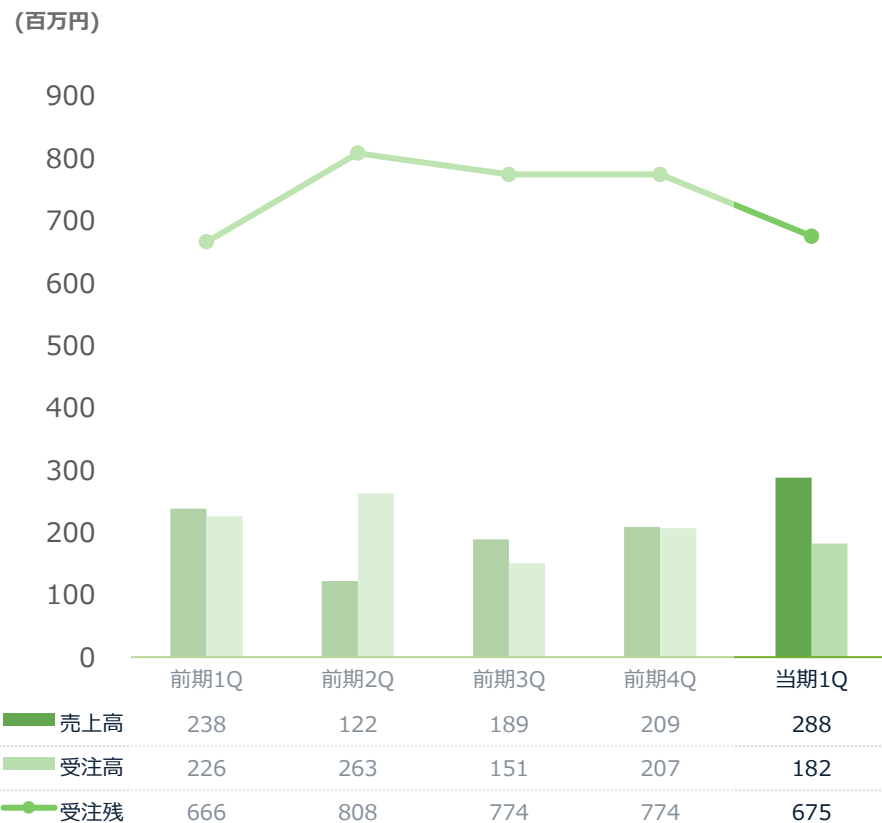
売上高・受注高・受注残高 推移 (四半期毎)



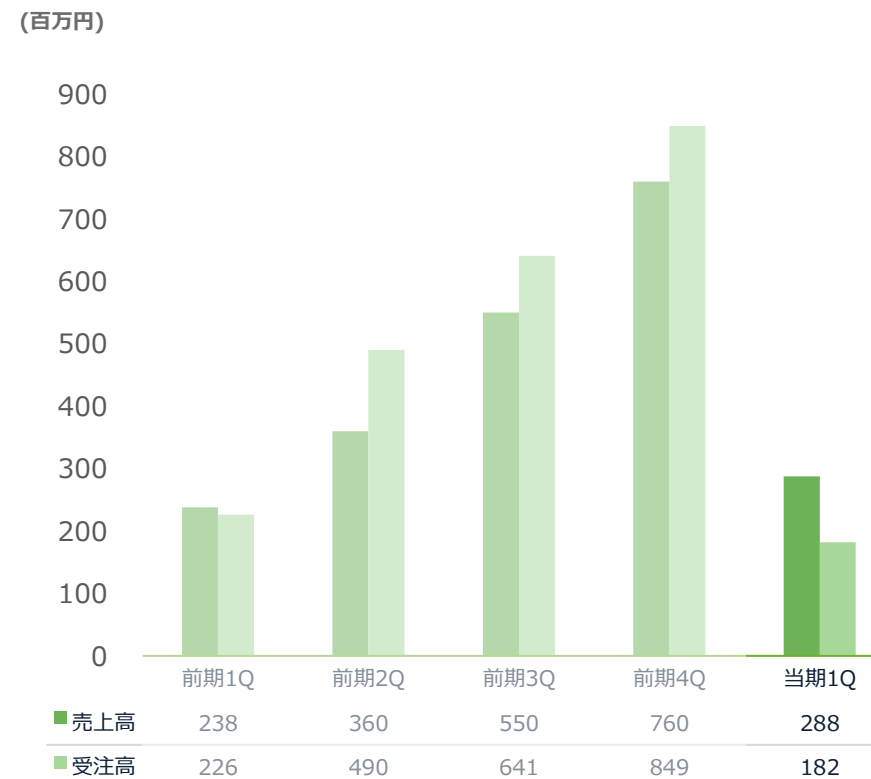
売上高・受注高 推移 (累計)



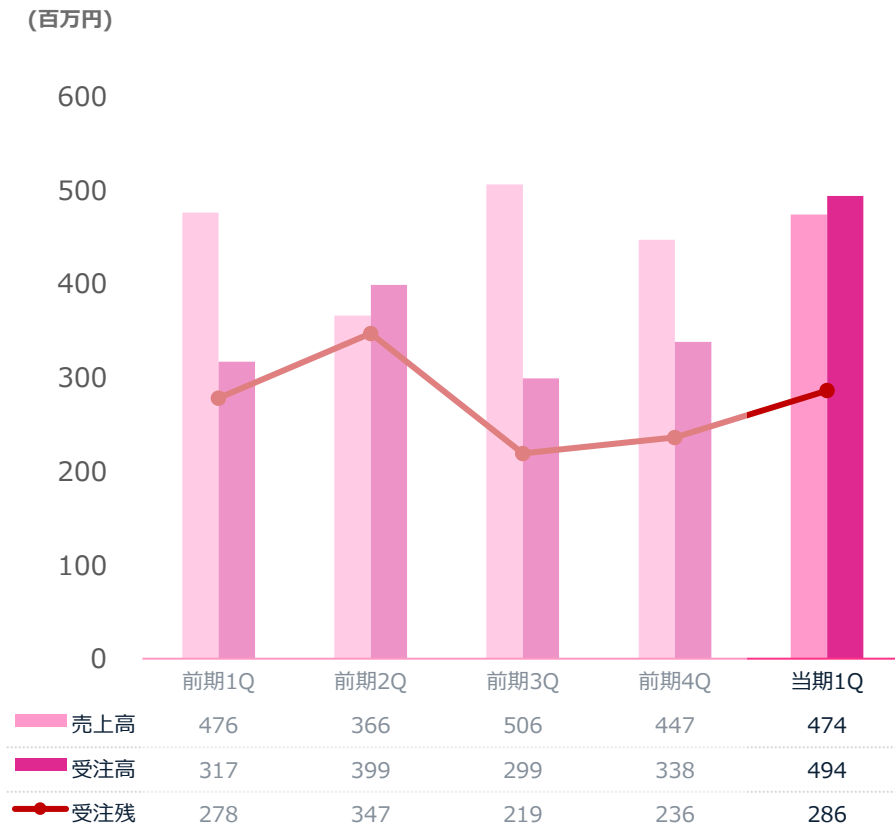
売上高・受注高・受注残高 推移 (四半期毎)



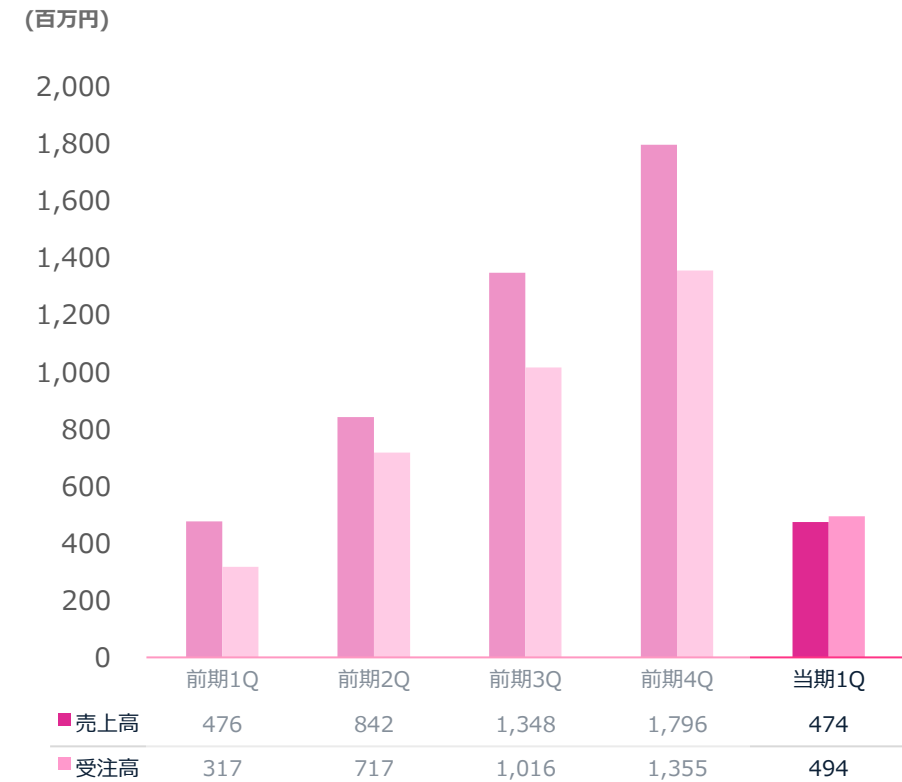
売上高・受注高 推移 (累計)



売上高・受注高・受注残高 推移 (四半期毎)



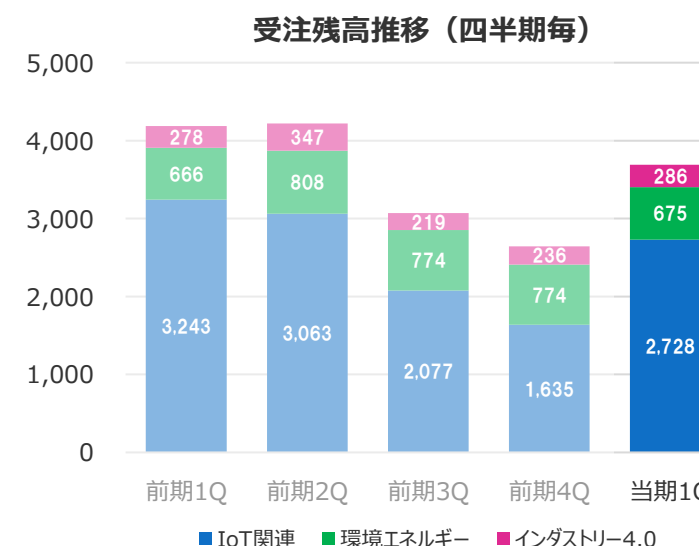
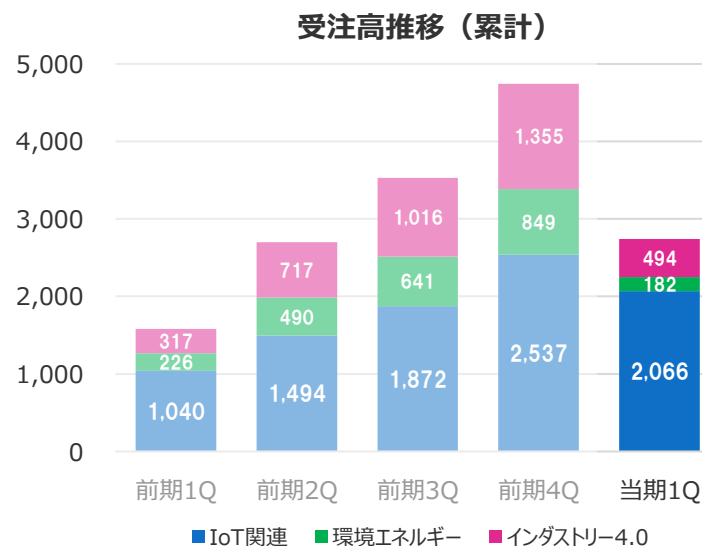
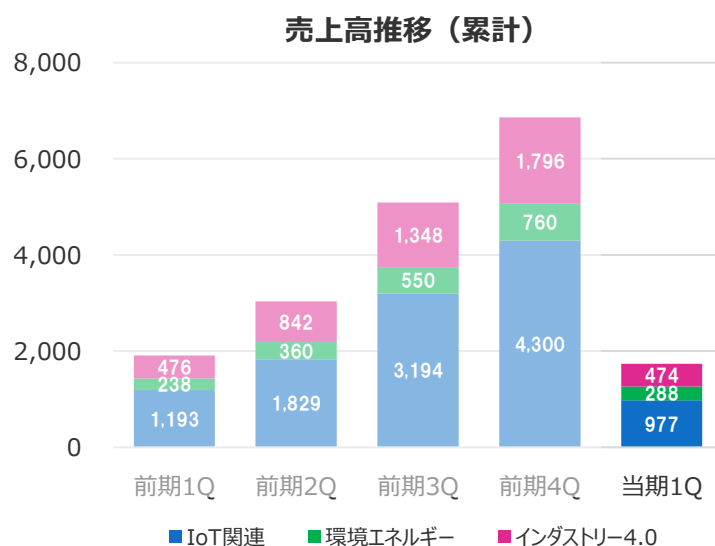
売上高・受注高 推移 (累計)



2024年5月期第1四半期

(単位：百万円)

事業セグメント	売上高		受注高		受注残高	
	金額	前年同期比増減率	金額	前期同期比増減率	金額	前年同期比増減率
IoT関連事業	977	△18.1%	2,066	98.6%	2,728	△15.9
環境エネルギー事業	288	21.0%	182	△19.5%	675	1.4
インダストリー4.0推進事業	474	△0.3%	494	55.5%	286	2.8
合計	1,740	△8.8%	2,743	73.0%	3,690	△11.9



Appendix ②

会社概要

商号	株式会社インターアクション INTER ACTION Corporation	上場市場	東京証券取引所 プライム市場
設立	1992年6月25日	証券コード	7725
代表者	代表取締役社長 木地 伸雄	事業年度	自 6月1日 至 5月31日
資本金	1,760百万円	URL	https://www.inter-action.co.jp
従業員	126名（2023年5月末時点 グループ全体）	グループ会社	株式会社エア・ガシズ・テクノス 明立精機株式会社 株式会社東京テクニカル 西安朝陽光伏科技有限公司 陝西明立精密设备有限公司 MEIRITZ KOREA CO.,LTD Taiwan Tokyo Technical Instruments Corp. TOKYO TECHNICAL INSTRUMENTS (SHANGHAI) CO.,LTD 株式会社ラステック
本社所在地	神奈川県横浜市金沢区福浦1-1 横浜金沢ハイテクセンター14階 TEL:045-788-8373 FAX:045-788-8371		
事業所	横浜市中区・熊本県合志市・長崎県長崎市		

重要指標

Equity Spread
ROE

配当方針

総還元性向30%

M&A方針

成長分野・今後成長を見込める分野であること
培ってきた技術や事業のノウハウが、事業展開に活用できる分野であること
5年間の想定キャッシュ・フローをWACCで割り引いたNPVがプラスになること

メール配信サービス

インターアクショングループに関する様々な情報をメールでお届けします

当社HP「メール配信サービス」画面

https://www.inter-action.co.jp/ir/ir_mail/

ご登録いただきました情報は、IRメール配信サービスのみを使用します。

個人情報の取り扱いにつきましては、当社ホームページに記載しております

「個人情報保護方針」をご参照下さい

<https://www.inter-action.co.jp/privacy/>

お問い合わせ

株式会社インターアクション

経営企画室 経営企画グループ IR担当

神奈川県横浜市中区山下町 2 番地 産業貿易センタービル10階

TEL : 045-263-9220

<https://www.inter-action.co.jp/inquiry/>

HPお問い合わせ画面よりお問い合わせ下さい



注意事項

本資料に記載されている情報には、将来の業績等に関する見通しが含まれております。これらの見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づいて当社グループにより判断されたものであり、様々な潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。実際の業績等は、今後の事業領域を取り巻く経済状況、市場の動向等の影響を受けるものであり、記載された見通しと大きく異なる結果となることをご承知置き下さい。

本資料で提供している情報に関しては、万全を期しておりますが、その情報の正確性及び完全性を保証するものではありません。また、予告なしに内容が変更または廃止される場合がございますので、予めご了承ください。

事前の承諾なしに本資料に掲載されている内容の複製・転用等を行うことを禁止します。